

科目名	社会制度政策研究演習 I			担当教員：仲地 清
科目名 (英語)	Seminar in social systems and Policies I			連絡先 k.nakachi@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1226
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	503	月 15:00~17:00 金 15:00~17:00

1. 講義内容

修士論文執筆へ向けた準備セミナーである。問題意識、問題発見、研究分野として可能性、分析方法、適用可能な理論、資料収集方法などについて講義する。

2. 履修要件

国際関係特論、国際政治特論の受講済みが望ましい。
社会制度政策教育研究領域専攻は必修科目

3. テキスト

特定のテキストは指定しないが、テーマについての関連論文を多く精読する。

4. 参考書

戸田山和久著「論文の教室」NHK ブックス、2005年
大串夏芽著「文化系学生のインターネット検索術」青弓社、2001年
谷岡一郎著、「『社会調査のウソ』リサーチ・リテラシーのすすめ」文春新書、2000年

5. 講義予定

第 1 回	修士論文のレベル	第 1 7 回	研究題目の決定
第 2 回	合格修士論文の条件	第 1 8 回	問題の認識
第 3 回	名桜大のこれまでの修士論文	第 1 9 回	研究動機
第 4 回	名桜大のこれまでの修士論文	第 2 0 回	研究理論、方法論の確定
第 5 回	研究者倫理	第 2 1 回	研究項目の設定
第 6 回	研究者倫理	第 2 2 回	文献と所在地
第 7 回	問題の発見	第 2 3 回	文献と所在地
第 8 回	問題の発見	第 2 4 回	実地調査
第 9 回	資料はどこにあるか	第 2 5 回	実地調査
第 1 0 回	資料はどこにあるか	第 2 6 回	整理
第 1 1 回	面接方法	第 2 7 回	整理
第 1 2 回	アンケート調査	第 2 8 回	これまでの成果の点検
第 1 3 回	理論発見	第 2 9 回	これまでの成果に点検
第 1 4 回	理論発見	第 3 0 回	補充調査・研究
第 1 5 回	学生の研究テーマの発表	第 3 1 回	補充調査・研究
第 1 6 回	まとめと試験	第 3 2 回	まとめ

6. 評価方法

理論に関するレポート	30点
フィールド調査レポート	30点
研究課題に関するレポート	30点
発表内容と技術	10点
合計	100点

7. その他

大学院生は自主学習を重んじます。積極的に学問の追及に挑戦してください。

科目名	社会制度政策研究演習Ⅱ			担当教員：仲地 清 メールアドレス： k.nakachi@post-meio.u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1226
科目名(英語)	Seminar in Social Systems and Policies II.			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	305	月 15:00~18:00 金 15:00~18:00

1. 講義内容

修士論文を仕上げる最終年の演習であるので、執筆指導を中心にします。1年で終えた作業を踏まえ、精密で内容のある論文に仕上がるように指導する。

2. 履修要件

社会制度政策研究演習1を履修済みであること。社会制度政策教育研究領域の専攻は必修。

3. テキスト

随時紹介する。

4. 参考書

随時紹介する。

5. 講義予定

第1回	受講生による予定論文の内容の説明	第17回	執筆
第2回	論文取り組みの心得	第18回	執筆
第3回	論文取り組みの心得	第19回	執筆
第4回	目次検討	第20回	執筆
第5回	目次検討	第21回	執筆
第6回	調査方法	第22回	校正
第7回	調査方法	第23回	校正
第8回	分析方法	第24回	校正
第9回	分析方法	第25回	点検
第10回	資料収集	第26回	再点検
第11回	資料収集	第27回	再点検
第12回	資料収集	第28回	製本準備
第13回	引用技術	第29回	製本準備
第14回	引用技術	第30回	製本
第15回	引用技術	第31回	発表準備
題16回	執筆	第32回	発表準備

6. 評価方法

目次など研究枠組みに関する報告	30点
第10回段階の論文の出来具合の点検	30点
50%段階の完成度に関する報告	40点
合計	100点

7. その他

修士論文は基本的に自分自身で仕上げる作業である。最高の論文に仕上げることを目標に、気を抜かないで頑張りたい。

科目名	国際政治特論 I			担当教員：高嶺 司
科目名(英語)	International Politics I			メールアドレス： takamine@okinawa-ct.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1, 2	前期	非常勤講師 控室	講義終了後または予約による

1. 講義内容

本講義は、過去数十年の急速な経済成長を背景に、国際社会における存在感を増しているアジア太平洋諸国（日本、中国、台湾、韓国、北朝鮮、ロシア、オーストラリア、ニュージーランド、ASEAN、南太平洋島嶼国）の国際関係を考察する。具体的には、アジア太平洋地域の複雑でダイナミックな国際情勢を、政治外交、経済協力、地域機構、民主化、社会変動、領土問題、安全保障といった多角的な視点より考察し、21世紀の地球社会におけるアジア太平洋地域の役割と可能性、さらにその限界を展望する。

2. 履修要件

特になし

3. テキスト

特定の教科書は定めず、講義にそって参考文献や参考資料を配布する。

4. 参考文献

日本国際政治学会編 『国際政治研究の先端6』有斐閣 2009年
 日本国際政治学会編 『東アジア新秩序への道程』有斐閣 2009年
 原貴美恵編 『在外日本人研究者が見た日本外交』藤原書店 2009年
 大庭三枝著 『アジア太平洋地域形成への道程』ミネルヴァ書房 2004年
 川口浩・渡辺昭夫編 『太平洋国家オーストラリア』 東京大学出版会 1988年

5. 講義予定

- 第1回 はじめにー概念としてのアジア太平洋
- 第2回 アジア太平洋地域の国際関係
- 第3回 アジア太平洋経済協力(APEC)と経済統合
- 第4回 アセアン地域フォーラム(ARF)と安全保障
- 第5回 日本のアジア太平洋外交
- 第6回 中国の政治外交と東アジア共同体構想
- 第7回 ロシアの政治外交と北方領土問題
- 第8回 韓国の政治外交と朝鮮半島問題
- 第9回 北朝鮮の核開発問題と6カ国協議
- 第10回 台湾の政治外交と中台関係
- 第11回 オーストラリアの政治外交
- 第12回 東南アジア諸国連合(ASEAN)と地域主義
- 第13回 ベトナムとミャンマーの社会構造変動と民主化
- 第14回 ニュージーランドと太平洋諸島フォーラム(PIF)
- 第15回 まとめ

6. 評価方法

課題レポート（60点）、発表（10点）、ディスカッション（30点）で評価する。

7. その他

科目名	国際政治特論Ⅱ			担当教員：高嶺 司
科目名(英語)	International Politics II			メールアドレス：takamine@okinawa-ct.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号：0980-55-4235
2	1, 2	後期	非常勤講師 控室	オフィスアワー
講義終了後または予約による				

1. 講義内容

過去30年間、政治経済から文化や科学や環境に至るあらゆる領域において、グローバル化と称される「地球規模のスケールをともなった相互接続」が顕著となってきている。本講義では、グローバル化(Globalization)をキーワードに国際政治経済の動向と問題点を深く考察する。具体的には、地域統合、国際貿易と金融、安全保障、民主化と人権、貧困と開発、環境問題、NGO運動、情報通信革命、テロリズム、捕鯨問題、文明の衝突といった問題に焦点をあてながら現代の国際情勢を解説する。

2. 履修要件

特になし。

3. テキスト

特定の教科書は定めず、講義にそって参考文献や参考資料を配布する。

4. 参考文献

添谷芳秀編 『21世紀国際政治の展望』 慶応義塾大学出版会 1999年
 日本国際政治学会編 『新しいヨーロッパ—拡大EUの諸相』 有斐閣 2005年
 五百旗頭真編 『戦後日本外交史』 有斐閣アルマ 2004年
 日本国際政治学会編 『周縁からの国際政治』 有斐閣 2007年
 John Baylis, Steve Smith and Patricia Owens (eds.), *The Globalization of World Politics*, OUP, 2008.

5. 講義予定

- 第 1 回 はじめに—グローバル化と国際政治
- 第 2 回 EUの地域統合と地域主義
- 第 3 回 国際貿易と金融システム
- 第 4 回 情報通信技術革命と国際政治
- 第 5 回 グローバル市民社会
- 第 6 回 多国籍企業、NGO、国境なき医師団
- 第 7 回 地球温暖化と国際環境政治
- 第 8 回 国際捕鯨政治と日本の調査捕鯨
- 第 9 回 戦争の科学
- 第 10 回 テロリズムと国際安全保障
- 第 11 回 貧困と開発問題
- 第 12 回 民主化と基本的人権問題
- 第 13 回 人間の安全保障
- 第 14 回 文明の衝突論と現代国際社会
- 第 15 回 まとめ

6. 評価方法

課題レポート (60点)、発表 (10点)、ディスカッション (30点) で評価する。

7. その他

科目名	開発経済特論 I			担当教員：大城 肇 (学外)
科目名(英語)	Economies of Developing Countries I			メールアドレス：hajimeoshiro@hatmail.com
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号：098-895-8006
				オフィスアワー
2	1・2	前学期 (集中講義)	非常勤講師 控室	期間中，終了後1時間

1. 講義内容

「開発は人類が立ち向かっている最も重要な挑戦である」といわれる。開発の概念，経済開発の理論アプローチ，経済開発の中心的課題，経済開発の光と陰，開発と環境，人間の安全保障，島嶼地域の開発のあり方等について講述する。近年，開発と環境が対立概念として扱われ，1億総環境派という中であって，開発に分が悪い状況下にある。開発とは本来どのような使命を担うべきであったか，開発と環境の両立という考えはどこから発してきたか，開発は不要なのか，などなどについて現実の経済をふまえて検討する。この講義を通して，開発のあり方や持続可能な発展のための開発について受講生とともにディスカッションしていきたい。

2. 履修要件

開発経済に関心のある受講生を歓迎する。

3. テキスト

独自の教材をテキストとして使用する。講義開始時に配布する。

4. 参考書

- ・高木保興『開発途上国の経済分析』東洋経済新報社
- ・速水佑次郎『開発経済国』創文社
- ・小浜裕久『ODAの経済学』日本評論社
- ・藤崎成昭『発展途上国の環境問題』アジア経済研究所
- ・世界銀行『世界開発報告』各年版，東洋経済新報社
- ・M.P.トダロ『M.トダロの開発経済学』国際協力出版会
- ・原 洋之介『開発経済論』岩波書店
- ・西川潤『社会開発』有斐閣
- ・石 弘之『地球環境報告』岩波書店
- ・渡辺利夫『開発経済学』日本評論社
- ・W.エルカン『開発経済学』文真堂

5. 講義予定

Chap. I 開発経済学の課題

- 第 1 回 グローバリゼーションと開発途上国
- 第 2 回 開発経済学の系譜
- 第 3 回 発展途上国の特性／成長と発展と開発

Chap. II 人間と開発

- 第 4 回 貧困とその現状／貧困の要因と解決策
- 第 5 回 経済開発と平等化
- 第 6 回 偽装失業とインフォーマルセクター
- 第 7 回 マイクロ・クレジット

Chap. III 開発のメカニズム

- 第 8 回 経済成長のメカニズム
- 第 9 回 経済開発と人的資源
- 第 10 回 経済開発と技術
- 第 11 回 プロダクト・サイクル論

Chap. IV 経済開発と開発資金

- 第 12 回 資本蓄積と開発資金
- 第 13 回 直接投資と経済発展
- 第 14 回 政府開発援助の功罪

Chap. V 経済開発と環境

- 第 15 回 持続的発展の概念／循環型社会の実現のために

6. 評価方法

ディスカッション (20%) 及び課題レポート (80%) をもとに成績を評価する。レポートの評価基準は以下のとおりである (80 点満点に換算する)。[] 内はディスカッションの評価基準である。

なお、総授業時間数の三分の一以上を欠席した者は理由の如何を問わず不可と評価する。

- 16～20 点：期限通り提出、内容が優れている [活発に質問し議論に参加]
- 11～15 点：期限取り提出、内容に課題あり [ある程度に質問し議論に参加]
- 6～10 点：期限より遅れて提出、内容良好 [たみに質問し議論に参加]
- 1～5 点：期限より遅れて提出、内容に課題あり [ほとんど質問はなく議論に参加せず]
- 0 点：未提出

7. その他

プロジェクターと資料展示装置を用いたハイペースの講義を行う。積極的なディスカッションを期待したい。

科目名	開発経済特論Ⅱ			担当教員：野崎四郎(学外)
科目名(英語)	Economies of Developing Countries II			メールアドレス：nozaki@okiu.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号：なし
2	1・2	集中講義 (後期)	非常勤講師控室	オフィスアワー
講義終了後				

1. 講義内容

貧困・格差等の経済開発について、一般的な理論を地域・国際の観点から講義する。

2. 履修要件

特になし。

3. テキスト

「テキストブック開発経済学」ジェトロ・アジア経済研究所、朽木昭文・野上裕生・山形辰史（編）
有斐閣ブックス 2004年

「開発経済学の潮流」G・Mマイヤー、J・E・スティグリッツ(共編)、関本勘治・近藤正規、
国際協力研究グループ シュプリンガー・フェアラーク東京

4. 参考書

適宜、指定する。

5. 講義予定

第1回	開発に関する一般論
第2回	〃
第3回	〃
第4回	〃
第5回	開発への取り組み（Ⅰ）
第6回	〃
第7回	開発への取り組み（Ⅱ）
第8回	〃
第9回	開発への取り組み（Ⅲ）
第10回	〃
第11回	開発と人材
第12回	〃
第13回	開発のメカニズム
第14回	〃
第15回	まとめ

6. 評価方法

発表、討論、提出ペーパー等で評価する。

7. その他

リサーチペーパーは第15週に提出すること。

科目名	国際関係特論 I			担当教員：仲地 清
科目名 (英語)	International Relations I			連絡先 k.nakachi@meio-u.ac.jp 098-051-1226
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	I、2年次	前期	503	月：12；10～15：00 火：13：00～15：00

1. 講義内容

国際関係の理論、米外交政策、日本外交、沖縄と周辺諸国（地域）との関係、国際政治史、時事問題などからテーマを選び、セミナー式の講義をする。

2. 履修要件

国際関係特論、国際政治特論を同時受講することを勧める。社会制度政策教育研究領域専攻の必修科目である。

3. テキスト

国際関係論の概説書を3冊選び、精読すること。その後、著書、論文、参考図書から、講義日程の内容に対応した資料など抜粋して配布する。

4. 参考書

随時紹介する。国内外の新聞、月刊誌に目を通して、国内外の動きを把握して国際問題に関心を持つこと。

細谷千博著「日本外交の奇跡」NHK ブックス (2004年版)

高屋定國著、グローバル時代の政治、メネルヴァ書房、1996

Kiyoshi Nakachi, Ryukyu-U.S.-Japan Relations 1945-1972, Abiva Publishing House, 1989

宮里政玄著、アメリカの沖縄統治、岩波書店、1966

管英輝 著、米ソ冷戦とアメリカのアジア政策、ミネルヴァ書房、1993

5. 講義予定

- 第1回 国際関係論の歴史と研究領域
- 第2回 国際関係と私 (受講生の関心領域の発見)
- 第3回 国際政治史1
- 第4回 国際政治史2
- 第5回 国際政治と日本
- 第6回 国際政治と沖縄
- 第7回 国際関係の理論 1 (国際認識と国際理論)
- 第8回 国際関係の理論 2 (伝統主義)
- 第9回 国際関係の理論 3 (科学主義)
- 第10回 国際関係の理論4 (ポスト科学主義)
- 第11回 学生の報告 (理論の再検証)
- 第12回 国際問題① グローバル社会と地域
- 第13回 国際問題② グローバル社会と国
- 第14回 国際問題③ グローバル社会と国際機構
- 第15回 グローバル時代に該当する国際関係理論の再検討
- 第16回 まとめと試験

6. 評価方法

理論に関するレポート	20点
時事問題に関するレポート	20点
研究課題に関するレポート	20点
書評	20点
発表内容と技術	20点
合計	100点

7. その他

大学院生は自主学習を重んじるので、時代の変化に対応した新しい課題、研究方法を掴む努力をしてください。

科目番号	国際関係特論Ⅱ			担当教員：仲地 清												
科目名(英語)	International Relations Ⅱ			連絡先 k.nakachi@meio-u.ac.jp 098-051-1226												
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー												
2	1. 2	後期	503	月 15:00~17:00 金 15:00~17:00												
<p>1. 講義内容 私の専門領域である安全保障、戦争と平和、日中関係、日米関係、沖縄の戦後政治史などを中心とした講義で、修士論題の選択へ向けて、学生の基本的な知識とモチベーションを高める。</p> <p>2. 履修要件 国際関係特論、国際政治特論を受講済みが望ましい。 社会制度政策教育研究領域専攻の必修科目</p> <p>3. テキスト 特定のテキストは指定しないが、講義内関連のテーマについての論文、課題などを参考書などから抜粋して使用する。</p> <p>4. 参考書 国内外の新聞、月刊誌に目を通して、国内外の動きを把握して国際問題に関心を持つこと。 宮城悦二郎編「復帰20周年記念沖縄占領」ひるぎ社、1993年 小泉親司著「日米軍事同盟史研究」新日本出版社、2002年 Kiyoshi Nakachi, Ryukyu-U.S.-Japan Relations 1945-1972, Abiva Publishing Houseline, 1989 宮里政玄著「アメリカの対外政策決定過程」三一書房、1981年</p> <p>5. 講義予定</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回 国際社会の課題 第2回 沖縄問題の認識（フィールド調査） 第3回 沖縄戦後史 第4回 沖縄県祖国復帰運動 第5回 米国軍事戦略と沖縄基地 第6回 地方自治と沖縄の基地 第7回 日米軍事同盟と沖縄基地 第8回 日中関係Ⅰ 第9回 日中関係Ⅱ 第10回 日米関係 第11回 平和運動、NGO、日本の国際貢献 第12回 国際問題① グローバル社会と地域 第13回 国際問題② グローバル社会と国 第14回 国際問題③ グローバル社会と国際機構 第15回 学生の研究テーマの発表 第16回 （まとめと試験） <p>6. 評価方法</p> <table border="0"> <tr> <td>理論に関するレポート</td> <td>20点</td> </tr> <tr> <td>時事問題に関するレポート</td> <td>20点</td> </tr> <tr> <td>研究課題に関するレポート</td> <td>20点</td> </tr> <tr> <td>書評</td> <td>20点</td> </tr> <tr> <td>発表内容と技術</td> <td>20点</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100点</td> </tr> </table> <p>7. その他 大学院生は自主学習を重んじますので、たえず時代の変化に対応した新しい課題、研究方法を掴む努力をしてください。</p>					理論に関するレポート	20点	時事問題に関するレポート	20点	研究課題に関するレポート	20点	書評	20点	発表内容と技術	20点	合計	100点
理論に関するレポート	20点															
時事問題に関するレポート	20点															
研究課題に関するレポート	20点															
書評	20点															
発表内容と技術	20点															
合計	100点															

科目名	地域開発政策特論			担当教員：宮城 敏郎
科目名(英語)	Regional Development Policy			メールアドレス：t.miyagi@meio-u.ac.jp
単位数	受講年次	開講学期	研究室	研究室電話番号：0980-51-1083
2	1・2	前期	204	オフィスアワー
月曜日 16:30~18:00				

1. 講義内容

経済のグローバル化、高度情報化（IT革命）の急速な進展に伴って地域の経済環境は大きく変化しており、従来の中央集権的タテワリ行政システムの中で地域の開発政策を考えるのは困難である。

本講義においてはこうした状況を踏まえ、経済的自立の条件とは何か、産業集積のメカニズムとは、競争優位を創出するためには何が必要か等、地域の視点（「地方の時代」）から経済の発展について考えていく。後半は実際に沖縄振興開発計画等にふれつつ、開発政策が沖縄の経済的自立にどう影響しているかについて考察していく。

2. 履修要件

特にないが、経済学の知識を備えている者が望ましい。

3. テキスト

プリントを配布する。

4. 参考書

宮城辰男編『沖縄・自立への設計』同文館、平成9年 価格2500円

宮城辰男『沖縄の開発』精印堂印刷、平成9年 価格2000円

伊藤正昭『地域産業論』学文社、1997年 価格2800円

宮本憲一他編『地域経済学』有斐閣、1990年 価格2500円

鎌倉健『産業の集積の地域経済論』2002年 価格3500円

5. 講義予定

第1回 オリエンテーション

第2回 「地域」と「地域経済学」

第3回 経済自立の条件とは

第4回 経済発展と産業立地

第5回 「外部経済」と「取引費用」

第6回 「低次元の競争優位」と「高次元の競争優位」

第7回 シュンペーターの『経済発展の理論』

第8回 技術革新と産業構造の変化

第9回 アナリー・サクソニアンの『現代の二都物語』

第10回 IT革命と地域経済

第11回 地域インキュベータと企業の創出

第12回 「外発的発展」と「内発的発展」

第13回 全国総合開発計画と沖縄振興開発計画1

第14回 全国総合開発計画と沖縄振興開発計画2

第15回 ポスト三次振計と沖縄の経済的自立

6. 評価方法

発表（30点）＋ディスカッション（30点）＋課題レポート（40点）

7. その他

科目名	都市政策特論			担当教員：高嶺 晃 (学外)
科目名(英語)	Municipal Policies			メールアドレス： 研究室電話番号：
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1, 2	後	非常勤講師控室	講義終了後

1. 講義内容

都市計画の基礎理論と実践事例をもとに、時代のニーズに対応したまちづくりについての講義及び事例の検証等をふまえたセミナー方式による。

2. 履修要件

3. テキスト

特定の教科書は定めず、講義にそって参考文献及び参考資料、レジメ等による。

4. 参考文献

「タイム is タイム」 高嶺 晃 著

5. 講義予定

- 第 1 回 都市計画の一般的概論
- 第 2 回 学生とのミーティングによる講義内容の確認と選択
- 第 3 回 都市計画の実例と検証
- 第 4 回 都市計画の実例と検証
- 第 5 回 都市計画の実例と検証
- 第 6 回 都市計画の実例と検証
- 第 7 回 都市計画の実例と検証
- 第 8 回 まちづくりのプレゼンテーションの作成の方法
- 第 9 回 学生のプレゼンテーションの報告と評価
- 第 10 回 学生のプレゼンテーションの報告と評価
- 第 11 回 学生のプレゼンテーションの報告と評価
- 第 12 回 学生のプレゼンテーションの報告と評価
- 第 13 回 学生のプレゼンテーションの総合的評価と指導
- 第 14 回 学生のプレゼンテーションの総合的評価と指導
- 第 15 回 都市計画と都市経営の展開と実践
- 第 16 回 学期末試験 (*筆記試験を実施する場合)

6. 評価方法

実例の検証レポート、学生のプレゼンテーションなどを総合的に評価する。

7. その他

科目名	地方自治特論			担当教員：渡名喜 庸安
科目名(英語)	Local Government			メールアドレス：<ytonaki@ll.u-ryukyu.ac.jp> 研究室電話番号：098-895-8193
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前学期 (集中講義)	非常勤講師控室	講義終了後

1. 講義内容

わが国ではこの間、地方分権改革が行われてきており、その一環として、全国的に市町村合併が推進され、今日では、県から市町村への権限移譲が進められるとともに、都道府県の廃止を前提とする道州制の導入の議論も高まりを見せている。地方分権改革の課題は、単に地方制度の改革に止まらず、「国のかたち」を変える方向で進められており、国家的関心事ともなっている。

こうした状況を踏まえ、本講義では、地方レベルにおける統治団体（地方政府）である自治体（沖縄県や名護市など）について、「地方自治特論」というテーマのもとで、地方自治制度をめぐる改革論、自治体の仕事（事務）とこれを行う組織の仕組みや特徴、自治体の権能として重要な役割をもっている条例制定の問題、自治体における住民の地位や権利の問題について、その今日的状況と課題を明らかにするという観点から、講述していきたい。

なお、講義の進捗を見ながら、地元自治体である名護市役所（議会を含む）に赴き、講義で扱ったそれぞれの項目（組織や活動内容など）が名護市においてどのような仕組みになっているか、実際にどのように運用されているかについて、ヒヤリングを実施する予定である。もし開催中であれば、議会（や行政委員会）の傍聴や議員ヒヤリングも行ってみたい。

2. 履修要件

特になし

3. テキスト

渡名喜庸安・白藤博行ほか『アクチュアル地方自治法』（法律文化社 2010 年）

4. 参考書

中川義朗編『21世紀の地方自治を考える』（法律文化社）

原田尚彦『地方自治の法と仕組み』（学陽書房）

5. 講義予定

- 第 1 回 ガイダンス+憲法と地方自治
- 第 2 回 地方自治制度改革論（1）
- 第 3 回 地方自治制度改革論（2）
- 第 4 回 自治体論（1）
- 第 5 回 自治体論（2）
- 第 6 回 自治体の事務
- 第 7 回 自治体の組織（1）
- 第 8 回 自治体の組織（2）
- 第 9 回 自治体の条例（1）
- 第 10 回 自治体の条例（2）
- 第 11 回 自治体と住民（住民の地位と権利）（1）
- 第 12 回 自治体と住民（住民の地位と権利）（2）
- 第 13 回 名護市役所ヒヤリング（議会等の傍聴）
- 第 14 回 自治体としての名護市の制度的仕組み（学生の報告）
- 第 15 回 総括

6. 評価方法

講義の出席状況、発言内容および講義終了後に提出してもらった課題レポート（A4[40×40行]4枚程度）を総合評価する。

7. その他

集中講義の方式で実施。後半に名護市ヒヤリング（議会等の傍聴）を実施する予定である。

講義内容については、受講者とも相談して、若干変更することもある。